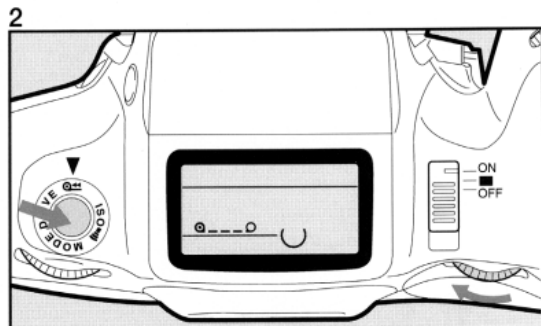


1
フィルムの途中巻き戻し
フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときに使います。

* 電源スイッチが「OFF」になっていると、途中巻き戻しの操作はできません。



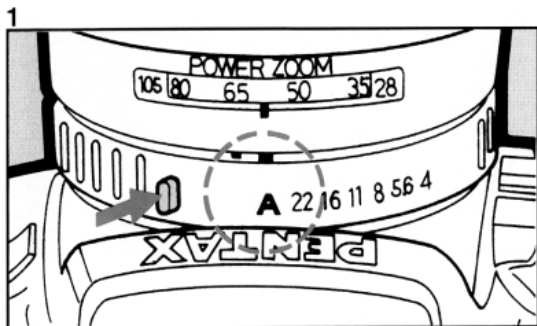
- 2
1. モードダイヤルを「M」に合わせます。
2. モードセットボタンを押したままA v ダイレクトダイヤルを左に2ステップ回すと、巻き戻しを開始します。

* 表示パネルの「M」の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

Ⅱ 基本的な 使い方 (撮影)

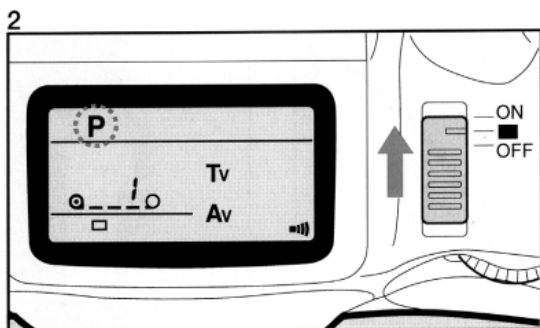
(1) 最も簡単な露出モードを使います


Z-5カメラには、高度な自動露出機能や様々なドライブモードが付いていますが、ここでは、最も簡単に使える「M」（グリーンポジション）を使用します。レンズの絞りがA位置の場合、電源スイッチがこの位置では露出モードはプログラム自動露出になります。写したいものの明るさに応じてカメラが自動的にシャッター速度と絞りを決定しますのでシャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。





1. 図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。

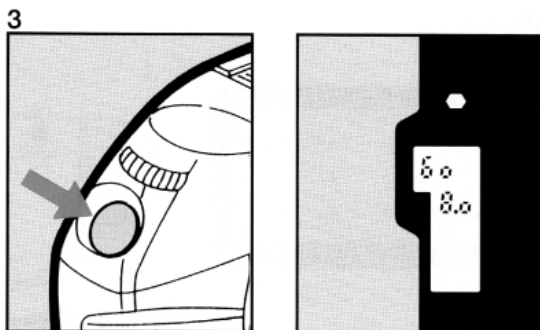
- * レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。
- * レンズの絞りがA位置になっていない場合は、絞り優先自動露出に設定されますので、52ページをご覧ください。



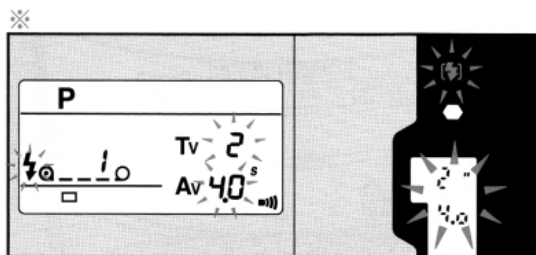
2. 電源スイッチをグリーンポジション  に合わせます。

- * 表示パネルに **P** が出て、プログラム自動露出に設定されます。
- * モードダイヤルが  になっていると、表示パネルに **P** は出ません。モードダイヤルを他の位置に変えてください。
- * 電源スイッチがグリーンポジション  では、露出補正 (56ページ) は働きません。また、測光モードは分割測光のみになります。

24



3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。



※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度と絞り値表示が点滅して警告します。NDフィルター (明るい場合) やストロボ (暗い場合) などをご利用ください。



望遠側



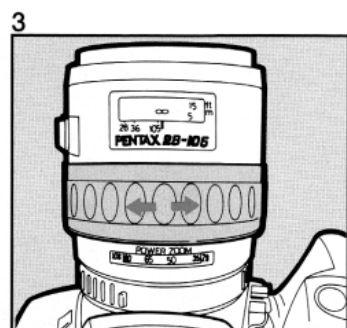
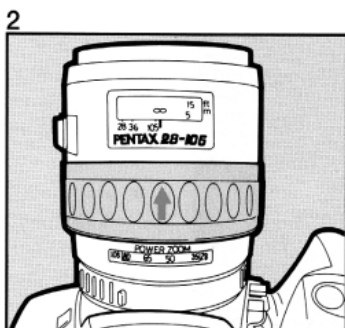
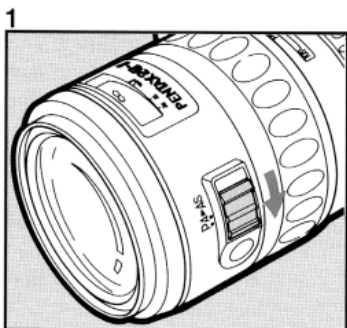
広角側

ファインダーを覗きながらズーミング操作をすると、ファインダー像が大きくなったり(テレ)、小さくなったり(ワイド)します。好みの位置に合わせて撮影してください。

- * レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写る範囲が広い広角(ワイド)側、大きいときは遠いものを大きく写す望遠(テレ)側になります。
- * Z-5にペンタックスFAズームレンズを組み合わると、パワーズーム(電動ズーム)として使用できます。
- * ペンタックスFズームレンズなどを組み合わせる場合は、マニュアルズームとしてご使用ください。

基本的な使い方

26



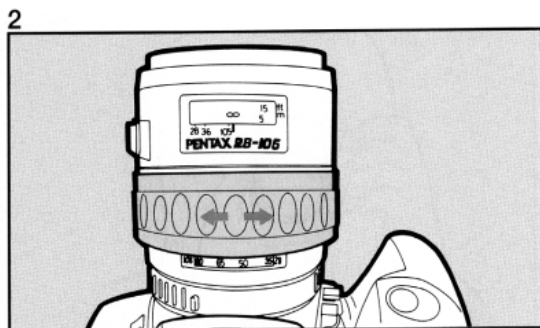
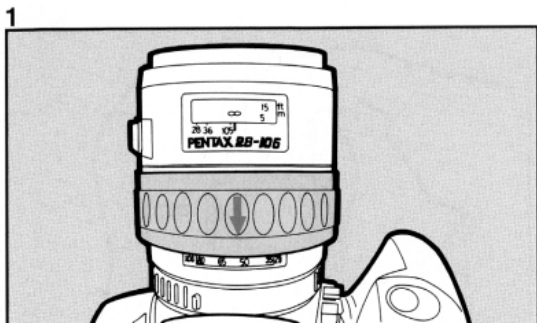
基本的な使い方

パワーズームで使用するには

- * ペンタックスFAズームレンズのみパワーズームとして使用できます。

1. FAズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを **P** に合わせます。
2. 図のように **POWER ZOOM** が見える状態にします。
3. ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側に動き、手を離すと止まります。

- * ズームリングは、回転させる角度によって、ズーミング速度が3段階に変化します。ズームリングの回転角度を大きくする(当て付ける)と高速でズームが動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置では、中速でズーミングできます。
- * FAズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。



マニュアルズームで使用するには

* F Aズームレンズは、ズームリングの切り替えで、マニュアルズームとしても使用できます。マニュアルズームに切り替えた場合は、Fズームレンズと同様に使用できます。

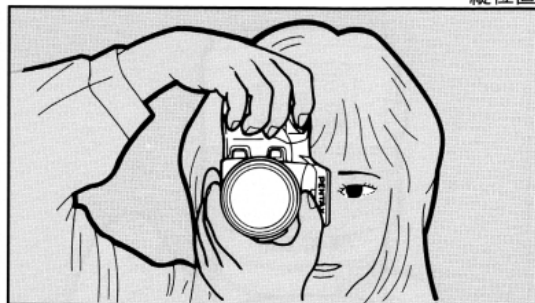
1. 図のように「POWER ZOOM」が隠れるようにします。
2. ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側に焦点距離が変化します。

(3) カメラの構え方

横位置



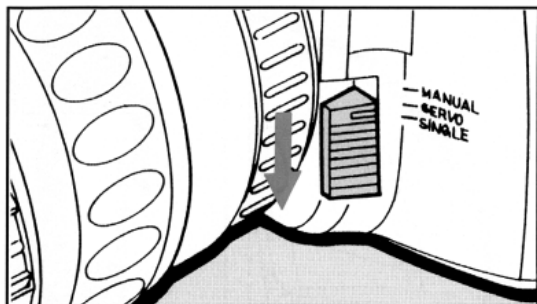
縦位置



撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- * シャッターボタンは指の腹で静かに押します。(強く押すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れません。)
- * 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させることも良い方法です。
- * 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは、なるべく三脚を使用してください。また、別売りの「ケーブルスイッチF」の利用をお勧めします。

- * 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。



図のように、フォーカスモードレバーには3つのポジションがあります。オートフォーカスで使うには、フォーカスモードレバーを **[SINGLE]** または **[SERVO]** に合わせます。

ここでは、フォーカスモードレバーを **[SINGLE]** に合わせておいてください。

フォーカスモードレバーについて

- ・ **[SINGLE]** = シングル
シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も一般的なオートフォーカスモードです。ピントが合っていないとシャッターは切れません。
- ・ **[SERVO]** = サーボ
シャッターボタンを半押ししている間、被写体の距離が変わっても、それに合わせてピントを追い続けるオートフォーカスモードです。ピントが合っていないでもシャッターボタンを押し込めば、いつでもシャッターが切れます。このモードでは動物予測機能も働きます。
- ・ **[MANUAL]** = マニュアル
手でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに使用します。(39ページ参照)

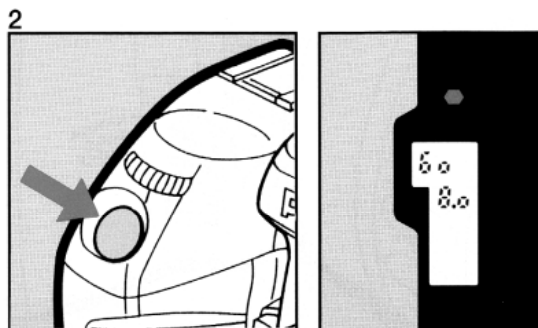
(5) オートフォーカスでピントを合わせます



1. 写真のように、AFフレーム **[C]** を写したいものに合わせます。
2. シャッターボタンを半押しすると自動的にピント合わせが行なわれます。

* 構図上、AFフレーム **[C]** がピントを合わせたいものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影(32ページ)」をご利用ください。

* ピントが合うと、図のようにファインダー内の **[C]** が緑色に光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

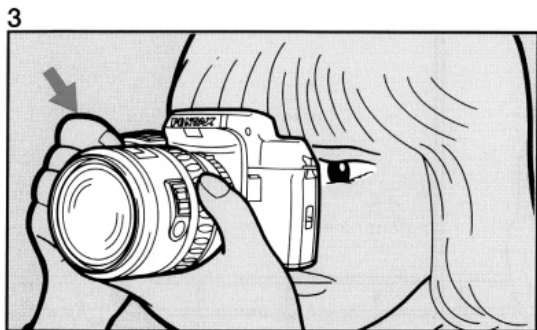


* モードダイヤルが **[OFF]** になっていると、オートフォーカスは働きません。通常はモードダイヤルを他の位置に合わせておいてください。

* オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。

[C] が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。

- ① 撮影距離が近すぎる
- ② オートフォーカスの苦手な被写体の場合(39ページ参照)



3. さらにシャッターボタンを押し切ると、撮影できます。



* SMCペンタックスFソフト85mmF2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～F4.5で撮影してください。(40ページもご覧ください)

動体予測

フォーカスモードレバーが[SERVO]では、シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、被写体の位置を予測しながら常にピントを合わせ続けます。

A Fシングル撮影：

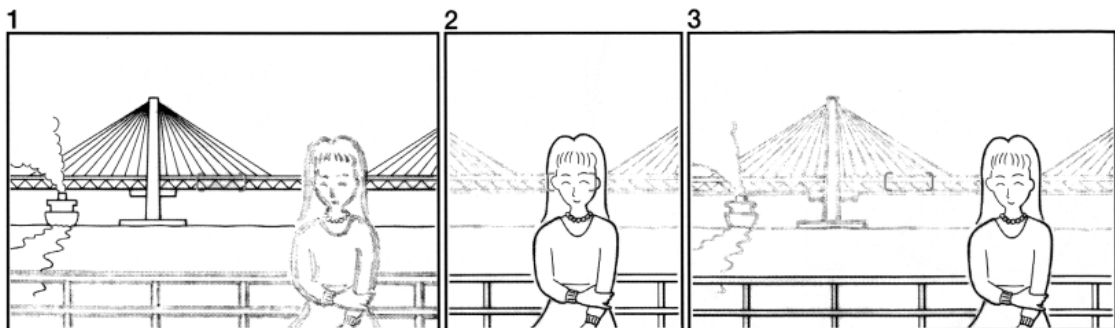
フォーカスモードレバー[SINGLE]の場合

- * ピントが合うまでシャッターは、切れません。
- * シャッターボタンを半押しして、が光っている間は、ピントが固定(フォーカスロック)されています。「フォーカスロック撮影」をご覧ください。(32ページ参照)
- * 一度ファインダー内のが点灯すると、ピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直してください。


A Fサーボ撮影：

フォーカスモードレバー[SERVO]の場合




- * ピント合わせに関係なくシャッターを切ることができますが、シャッターボタンを半押ししている間、A Fフレームを合わせたものにピントを合わせ続けます。
- * A Fサーボ撮影では、動く被写体に対して動体予測を行ないますので、動く被写体に対してピントの合ったシャープな写真を期待できます。
- * フォーカスロック撮影はできません。




フォーカスロック撮影について

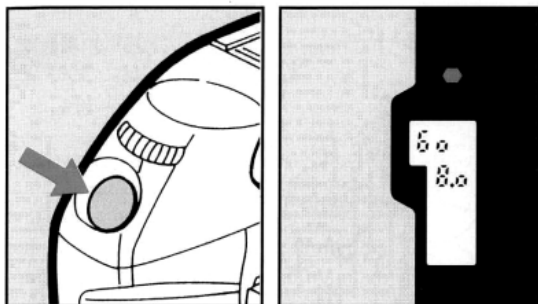
ピント合わせは画面中央のA Fフレームで行なわれます。

構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック(ピント一時固定)撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

1. A Fフレームが外れたままで撮影すると、図のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたいものにA Fフレームを合わせて、シャッターボタンを半押し状態にしてを点灯させたままにしておきます。(ピントを記憶させる操作です。)

3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。

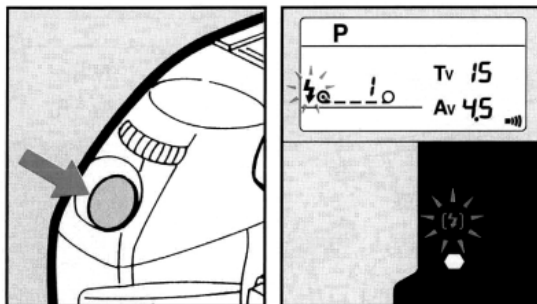
- * フォーカスモードレバーを[SINGLE]にしないと、フォーカスロックはできません。
- * シャッターボタンから指を離して、ファインダー内のが消えると、フォーカスロックは解除されます。
- * 撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離して、フォーカスロックをやり直してください。
- * フォーカスロックは1度撮影をすると解除されます。



シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。さらにシャッターボタンを静かに押し切って撮影します。

シャッターを切ると、自動的にフィルムを巻き上げ、表示パネルの枚数表示が1コマずつ進みます。

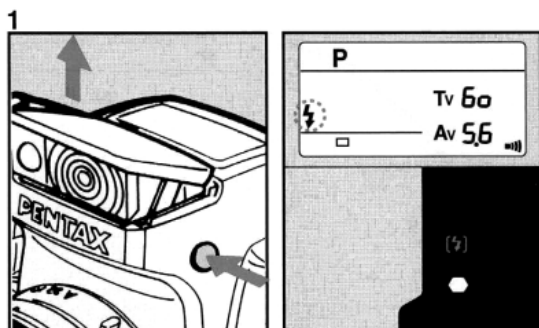
* モードダイヤルが になっていると、シャッターが切れません。通常は、モードダイヤルを他の位置に合わせておいてください。



ストロボお勧め表示について

カメラの露出モードをハイパープログラム・プログラム(電源スイッチがグリーンポジション の場合のみ)・絞り優先自動露出で使用した場合、写したいものが暗い場合や逆光のときに、ファインダー内 と表示パネル の点滅(ストロボお勧め表示)が出て、ストロボの使用を勧めます。

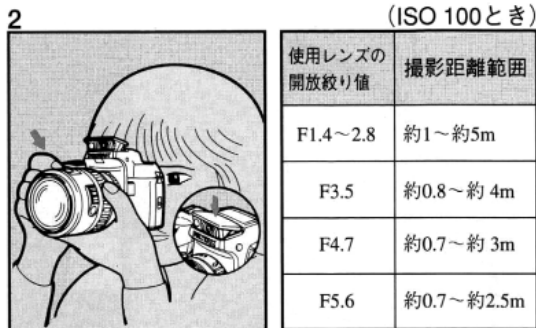
ハイパーマニュアルでは逆光の場合にのみ、ストロボお勧め表示がでます。



1. 図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。

* 充電が自動的に始まり、充電が終わると、表示パネルに がファインダー内には が表示されます。(充電時間は約3秒)

2. シャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押しつけて収納してください。



プログラムTTLオートストロボで撮影できる範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「1:1.4」のように表示されています。(F1.4の場合)

* 露出モードがハイパープログラム自動露出およびプログラム自動露出(電源スイッチがグリーンポジション の場合のみ)の場合、内蔵ストロボはプログラムTTLオートストロボとして働きます。